

2015年4月

## 2015年度がスタートしました

今年の桜はあっという間に咲き、あっという間に葉桜に変わりました。花見をする暇もない年度末、年度初めの忙しさです。

今年度の活動は「介護予防のためのサロン」「市民福祉講座」に重点を置き活動します。

今年度最初の「介護予防のためのサロン」が4月11日に開催されました。新体制なので、プログラムが順調に進むか？ 受付が？ 会計が？ レクリエーションの脳トレゲームが上手く行くか？ などなど… 気の休まらない一日でした。準備不足は目立ちましたが、事故もなく終える事ができ「楽しかったですよ！」の参加者の声に安堵しました。



昨年度の市民福祉講座で藻谷浩介氏に、下関の活性化について示唆して頂きました。一番は人口減少をくい止める事、そして地元のものをもっと大切に使うようにすべきだと言われました。人口減少をくい止める事の前向きにできることは、

- 1、子育てしながら働く若い世代を呼び込めること
- 2、無病息災で天寿を全うする高齢者を増やせること
- 3、来訪・滞在・短期定住する外来者を増やせること

1～3までの2は「介護予防のためのサロン」で健康寿命を延ばす活動を10年以上やっています。問題は1なのです。藻谷浩介氏の示唆にもとづき、今年度の市民福祉講座は“未来を担う子どもたちに、私たちができること”をメインテーマにしました。子育て支援を目的に子どもに関することを学ぶことで、私たちができることを模索し実践に結びつけたいと考えています。私の耳学問としては、少子、高齢、人口減社会の今という時代、将来を担う子ども6人に1人が貧困状態にあり、ひとり親世帯の子どもに限ると貧困率は5割を超え、先進国で最悪の水準とな

っているそうです。貧困世帯に育つ子どもは「学力」「健康」「家庭環境」「非行」「虐待」などさまざまな面で、貧困でない世帯に育つ子どもに比べて不利な立場にあるそうです。下関では就学時援助金を3人に1人が受けているのです。子どもは親を選べません。子どもを取り巻く環境（社会状況）としては、大変厳しい状況にあると聞きます。その中で共に生きる地域社会をめざすために、私たちができることを考える中で6講座を開催をします。

まず「少子化の現状」についてや「下関の子ども・子育て支援」の内容を下関市子ども未来部の部長、次部長に話して頂きます。そして「地域での子育ての意味と拡大する子どもの貧困について」「更生保護の現場から」「食のセーフティーネットが子どもの貧困を救う」「地域における子育て支援の実践事例」など実践されている方々に話して頂く予定です。とても内容の濃いプログラムになっていると自負しておりますので、たくさんの方々に参加して頂きたいと願っています。

詳しくは「2015年度市民福祉講座へのご案内」を見て下されば嬉しく思います。

私は市民活動は二つの意義があると考えます。その一つは会の主旨をふまえて目的のための学習や事業を通して学ぶこと、達成すること。もう一つは会員どうし切磋琢磨して、お互い人間性を磨くことだと思います。活動や事業に一生懸命になりがちなので、今年度はこのことについても、ゆっくり話し合いを持ちたいと思っています。

